

外に飛び出し、 世界を広くしよう

会長 津田俊隆



新年明けましておめでとうございます。本年が会員の皆様にとりまして、実りある1年になることを、心よりお祈り申し上げます。

早いもので会長に就任以来半年がたち、任期も半分を残すばかりとなりました。この間、所信表明でも記しましたように、産業界の再活性化に向けて学会として少しでも寄与を高めることを目標の一つに据え、青山前会長時代に検討を始めた施策の幾つかを実行に移してきました。例えば、企業会員が参加しやすく、また会員外の企業技術者にも最新の研究開発動向を知る機会を提供することをねらい、大規模展示会である CEATEC と併催する形で幾つかの研究会を開催しました。私も顔を出して様子を見ましたが、通常と比べて2倍近い多くの参加者を得、特に企業に所属されている技術者の参加が目立って多く、好評だったという結果が得られました。また、現在各支部の皆様にも重点活動項目の一つとして産業界活性化への貢献を取り上げて頂くようお願いしており、面白い実行案が出てくるのを心待ちにしています。昨年度に開始しました総務省との意見交換会も継続しています。また、学会をより多く活用して頂くため、学会の入り口である Web システムの改善について、1年以上の検討の結果やっと第一段階の実施内容が固まり、実行に着手します。

ところで、日本の ICT 産業界の活力が減退している間に、国内の技術者の気持ちが内向的になってきたのではないかと心配しています。私が勤めている会社でも、海外留学の希望者が明らかに減少しており、また国内・海外を含めて学会発表も減っています。多くの会社あるいは大学の先生方と話しても、若い年代の技術者が海外に喜んで行かないことは一般の傾向のようですし、企業の技術者が外部発表をしなくなったのも共通項のようです。これではますます技術者が自分の内にこもってしまい、世界が広がらないと危惧しています。確かに近年の日本は、それなりに研究開発できる環境があり、国内マーケットもある程度の大きさがあり、情報は自分の机からインターネットを介して入手できる等、内にこもっても何とかやれる状況にあるように見えます。その状況に安住している間に、懸命に外に出てゆく努力を続けた企業・個人にグローバル競争で大きく遅れをとることになったのではないのでしょうか。企業活動にしても個人にしても、外に飛び出すのはそれだけ苦勞もあります。それでも、外に出ると、優れた長期ビジョンに基づいた新しい基礎研究を目にし、いろいろの異なった考え方や要望に出会い新しいアイデアが浮かぶ、強烈な意欲とエネルギーで取り組んでいる人たちに接して自分を奮い立たせるなど、払った苦勞が十分報われる何かを得る機会も多いはずです。また情報についても、提示されたものを見るだけで本当のところがかめるのでしょうか。自分が何も提供しなくても得られる情報は深みに限りがあると思いますし、また直接議論せずに本当に知りたいことが十分得られたり、新しい発想がわくとは思えません。集まって顔を合わせることは、今でもほかでは果たせない重要な機能を提供すると思います。

特に若い皆さん、思い切り外に飛び出して、自分の世界を広げましょう。本学会は、研究会、大会、国際会議開催を通して会員の皆様飛び出し、多くの方と出会う場所を提供し続けます。せっかくの機能を有効に活用して、多くの方が自らも元気を倍増させ、産業界の再活性化に寄与して頂けることを期待しております。

まとまりのない文になりましたが、皆様にとりまして、本年が良い年になることをお祈り致します。